

国立中央青少年交流の家について

国立中央青少年交流の家は、文部科学省所管の独立行政法人国立青少年教育振興機構（平成18年4月発足）が運営する教育施設の一つです。

■ 教育目標（教育理念）

「体験活動を通じた青少年の自立」

様々な体験活動の機会を提供し、青少年一人ひとりの成長・発達を促し、その自律と社会性の涵養を目指します。

■ 運営方針

国立青少年教育施設としての役割と、我が国初の国立青年の家として創設された伝統を踏まえ、時代の要請に応じた新たな教育事業を創出して、その成果を広く発信します。

また、私たちは、国立中央青少年交流の家を利用されるすべての団体が、「利用してよかった」と思える「満足」を提供することを目指します。

■ 行動指針

私たちは、一人ひとりが教育施設としての役割を自覚しつつ、

- (1) 相手の立場に立って「親切」に「誠意」を持って対応します。
- (2) 「安全」な施設・設備、教育環境を整えます。
- (3) 魅力的で「感動」のあるプログラムの提供を目指します。

また、自己研鑽に努め、互いに学び合うことを通して、より質の高い教育活動の展開に努めます。



所章（シンボルマーク）

当施設を象徴する「富士山・家・若人」をイメージしてデザインされたものです。

上記の「運営方針」や「行動指針」は、利用団体の皆様をお迎えしたり教育事業を企画したりする際の基本的な心構えや姿勢について、職員が研修活動の中で互いに意見を出し合い、討議を重ねて取りまとめたものに基づいています。



近年、社会が豊かで便利になるなかで、子どもたちの自然体験、社会体験、生活体験などの体験が減少している傾向にあります。「体験の風をおこそう」運動は、子どもの健やかな成長に、体験がいかに大切かを広く発信し、社会全体で体験活動を推進する機運を高める運動です。